

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは、いわゆる「施設」ではなく、普通の「家」であるということの基本としている。自宅と違い、多少の制約はどうしてもあるが、起床時間や就床時間、食事時間等は一律とは考えていない起きるのが遅ければ朝食が遅れるのは当たり前前で、自室内で夜中にテレビを観ていても制止しない、寝るときは寝間着着用ということも、寝間着着用がなければ服だったり、シャツだったりでの就寝もあり、喫煙者は決められた場所(決められた時間にはなるが)での喫煙が出来る。飲酒についても可能とし、入居前の生活の継続を基本としている。他者とのトラブルにしても暴力に発展しなければ様子を見ている。どんな生活場面でも多少のトラブルがあるのも当たり前と認識し、人間の感情「喜怒哀楽」を大切にしている。機能低下予防として特別なリハビリ等はしていないが、食器拭き・タオルたたみ・郵便物受け取り・回覧板届け等の日常生活の動きや、自転車修理業だった入居者に車いす点検をお願いしたりと機能維持へ繋げている。特別なことはしていないが、当たり前の日常生活をおくって頂き「喜怒哀楽」の感情の表出も必要だと考えて支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は小中高校などが隣接する閑静な住宅街にある。付近の新釧路川にも近く公園が3か所ある。事業所は木造2階建て2ユニットで、居間、食堂、台所は一体的で、大きな窓からは陽が入り明るく、温、湿度が調整され、対面キッチンでは会話の弾む造りとなっている。通信は月に1回発行し、家族とのコミュニケーションの手段として取り組んでいる。トイレも解りやすいように大きな表示をし、1階2階との交流にも取り組んでいる。職員は「家」感覚を大切にし、起床や就寝、食事時間等の縛りをなくしたり、喫煙や飲酒についても一定のルールのもと本人本位に対応し、入居前の生活の継続を基本に支援している。職員は明るく、笑顔で話しかけるなど、利用者自身ができることは無理せず任せ、やりがいを見出すよう、生活の充実が心がけている。コロナ禍の中、庭の散歩やコンビニでの買物などを支援しているが5類への移行を踏まえ外出や家族面会制限の緩和を検討中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果. Contains 10 rows of evaluation data.

1階 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はフロアに掲げ、「明るく、楽しく、健康で、地域とともに」の理念通りに毎日笑いがあり、健康には留意しケアしているが、新入職者への指導は成されていない、地域とともにが難しく出来ていない。	事業所理念は「明るく、楽しく、健康で、地域とともに」をパンフレットやフロアに掲示している。今後、会議の中で新入職員への理解や「地域とともに」への取り組みをする意向である。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入会し、近くのコンビニに入居者とともに買い物に行ったりしていたが、コロナ禍にて入居者の外出もできていない。	町内会に加入しているがコロナ禍で地域との付き合いや利用者の外出もできていない。今後、国の方針のもと事業所としての対応を考えて地域との日常的な付き合いを再開したい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に活かす場が無い			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や助言を受け、ケアの向上に生かそうとはしていたが、コロナ禍にて書面開催となり、なかなか意見や助言、質問等も出て来ない。	地域包括支援センター職員・町内会役員が参加し、書面会議を開催している。行政や消防、学校など多くのメンバーを増やすよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアマネやホーム長・管理者が何かあれば相談し、助言をいただいたりしている。	利用者の行動問題を抱えた時は介護高齢課に相談し、病院での薬の処方による対応での問題解決等の他に生活保護課や地域包括支援センターの指導や助言を得るなど協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時の指導はしているが、日々の生活の中で、玄関に出た入居者へ「どこ行くの？」と直ぐに声掛けしたりと制止しているように見える対応が目立ってきていた。その都度指導はしている。	職員の身体拘束に対する更なる問題意識化のために、多くの現場での問題行動理由を事例から学ぶため、ユーチューブ活用による研修を検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法について学ぶ機会はなかった。常にお互いが注意しあい、入居者の言動や身体的変化に留意している。ただ、言葉については強い口調のこともあり、法律に加えてくつろぎで起こりうることを学ぶ機会を持つ必要がある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者もおられるが、制度についての勉強会は数年前に一度となっている。理解していない職員が多いと思われる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は一つ一つの項目を読み、時間をかけて説明し理解・納得を得ながら行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書にも記載しており、説明もしているが、コロナクラスター終息後に1通のみだが、意見箱を知用して頂いた。又、普段から些細な事でも言いやすい関係性の構築に努めている。	コロナ禍での家族からの意見は少ないが意見箱を設置している。口頭での内容を社内会議で検討し、改善に繋げている。	定期的に家族会を開催し、家族の抱えている問題を一緒に考える取り組みに期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より管理者と職員の疎通性はよく、意見や思いを引き出せていると思われる。その意見等を会議で取り上げ、必要時はホーム長や代表者へ繋げている。代表者は、運営に関する事案は必ずホーム長・管理者へ打診して意見を求めている。	職員の勤務体制などは職員の要望を受け入れて取り組んでいる。代表者は運営に関する事案はホーム長や管理者に打診し意見を求めている。今後、他事業所の状況を参考に更なる運営に努めていく。	定期的に職員会議を開催し、職員の抱えている問題を一緒に考える取り組みに期待したい
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業時間等、働き方については個々の希望を取り入れて短時間勤務や夜勤専門、午前中のみ等と希望を取り入れている。資格手当の増設もしたので環境面では良いと思うが、給与水準については報酬との兼ね合いもありなかなか満足は出来ていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍と人手不足とで研修は難しく出来ない中で、介護職員基礎研修に5名受講してもらい、日々の実践を伴いながらの指導に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で出来ない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は声掛けを多くしながら、ご本人の生活ペースや希望意向等を把握するようにして、ご本人がホームに早く馴染めて自分の生活スタイルを構築出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や申込時に家族が心配されている事など聞き取りし、入居後も電話や訪問時聞き取りするよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実費ではあるが、ベッドのレンタル、受診時の介護タクシー利用、訪問看護、往診居等を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、郵便物受け取り、枯れ葉掃除、布切り等日常的にしているが、決まったことだけしか出来ていないのかもしれない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍であっても、ご家族(キーパソン)の訪問を絶ったことは無く、毎月の写真入りのお便りの送付、入居者にとって必要な物の購入依頼等一緒に支えて頂けるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で制限はあるものの少人数での受け入れ、手紙のやりとり、電話等支援していた。	コロナ禍で知人友人の訪問が少ないため、家族からの電話や手紙を出してもらうなど馴染みの人や場所との関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「我が道を行く」・自分の思い通りに周囲が動かないと期限が悪くなる・悪口ばかり話す等入居者同士の良好な関係性の構築は難しく、その時々で作業の分担や席替え等をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ前は入院や他施設に入所された方へ面会もしていたが、コロナ禍で出来ていない。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	制限はあるものの、喫煙・飲酒は可、就寝・起床時間のしぼりは無い。ただ、あまり自分から希望は無いので日々の言動、家族からの情報等から検討して支援している。	利用者には午前午後の2回ログハウスでの喫煙、飲酒希望の利用者にはルールを決め、納得と意向を尊重し、工夫を凝らして支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族からの情報をシートに記載して頂き、入居後も本人の言動やご家族からの情報等から把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本情報・本人の言動・家族からの情報から把握に努め、記録しながら職員の情報共有に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から家族の意向や意見などは聞き取りするように努めている。アセスメントは全員でしており、会議やちょっとした時間でも課題や対応について話し、何度か試しながら良い方法を決めて介護計画に載せている	アセスメントを全員で行い、色々な角度からの気付きを大切に、チームで作る介護計画がより現状に即したものとなっている。家族の確認を得ている。状況に変化があれば都度見なおしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に、本人の言動や対応方法、介護員の気づき等を記載し、口頭や連絡ノートでも情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診付き添い、タクシー手配、理美容手配、、個々人に合わせた飲食物や備品、寝具や衣類等の購入代行等もしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、近くの店への買い物、遠出の外出、、作品展等もしていたが、コロナ禍と職員不足にて出来ていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療の継続を基本とし、時には往診医への変更の勧め等も話している。受診時には手紙を書いたり、付き添いの方に口頭で伝えたりしながら情報の共有は出来ていると思われる	かかりつけ医の受診は継続を基本とし、遠距離の通院利用者には利便性からかかりつけ医変更を行っている。通院困難な利用者には協力医による往診への支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム契約している訪問看護師や個人契約の訪問看護師には、日々の本人の状態やm心配事等を伝えている、訪問看護師からの助言で入院に繋がったこともある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族からの情報や直接病院に問い合わせたりしていたが、コロナ禍は難しかった。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明もし、入居後も本人・家族から聞き取りして状態・状況に応じて方針を決め同意書を頂いたりしている。現在、頂いている人(必要な人)はいない	看取りの説明は医師・看護師が行っている。契約時に兆候として食欲不振や荒い呼吸変化などを説明している。その後、状態変化に応じて、再度、医療関係者から家族に対し説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは誰でも見られる場所にあり、管理者等にもすぐに連絡できるよう連絡網もあるが、定期的な訓練はしていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルは誰でも見られる場所にあり、管理者等にもすぐに連絡できるよう連絡網もあるが、火災訓練はしているものの水害等の訓練はしていない、年々入居者の参加が難しくなっている。地域との協力体制は数年前に依頼したりしているだけなので見直しが必要である	火災避難訓練は実施しているが、水害等の避難訓練は行っていない。非常食、コンロ、ストーブ、簡易トイレ、高吸水性ポリマーなどを備蓄している。震度5以上の場合は職員の自主集合としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に気配りしている職員もいれば、時として大きな声で排泄に関する言葉かけをしたりする職員もいる。汚物や汚染衣類等は他入居者にわからないように運んだりしている。	他人に知られたくないプライバシーの確保に努めている。引継ぎや入浴・排泄介助にあたる時は他の利用者などに配慮した言葉かけをしている。問題が発生した都度、職員に注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自ら申し出てくれる人は無いが、言動や基本情報から本人の思いを探り、声掛けは選択できるような言葉を使用している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就床、食事時間等一律とは考えていない。入浴は職員配置から難しく日中となっているが、午前午後の中でと対応し、曜日も一応は決まっているが、変更したりと臨機応変に対応している。「外出したい」との話が聞かれても職員不足とコロナ禍で制限はあった。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの色や、キャラクター等考慮しながら、その人らしいお洒落が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で調理自体の参加は難しかったが、食器拭きや食べたいものを訊いたり、お好み焼きやたこ焼き等していた。	普通の食事とは別に季節料理を工夫している。ひな祭りの行事食としてちらし寿司・ひなあられ端午の節句にはこいのぼりを模して盛り付け工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食摂取量の観察や記載をしながら好みの物や食事形態、食器等考え、個々に摂取しやすいようにしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けはしているが応じてくれない人もいるので食後飲み物を飲んで頂き残渣が残らないようしている。歯科往診時に口腔ケアをお願いしたり、助言を頂いている時もある。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗することも増えてはきているが、声掛けしたり、行動の様子をみながら「寄っていかない」とさりげなく声掛けしたりしている。	排泄の自立支援に向けてトイレが解りやすいように看板や大きな表示をしている。トイレの利用が多い時は職員で調整している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を飲んで頂いたり、食物繊維豊富な食材を使用したりしている。状態によっては下剤も使用している。			
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応、曜日を決めてはいるが、変更など柔軟な対応をしている。浴室内にも飾りつけもしている。只、夜間の入浴は職員配置から難しい	入浴日を決めてはいるが変更など柔軟な対応をしている。体調不良などには臨機応変に対応している。入浴を拒否する利用者には時間を変えたり、入浴後の気持ち良さを伝えるなど対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝はゆっくり寝ていたい人や、夜間寝不足の人には無理に起床の声掛けはせず、音や光等にも留意している。フロアでの居眠りが長い人には声掛けし自室へ案内したりしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬名・量・効用等が解るようにファイリングしており、朝昼夕と色分けもしている。処方を受けセットするときには2重の確認を行い、変更などあった時には申し送りや書面での周知を図っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で外出は出来ていないが、季節ごとの飾りを一緒に作成したり、喫煙・飲酒も可能、日課となっている食器拭きや運動等の支援もしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は出来ていない。感染場をみながら外出出来たのは1名となっている。誕生日に家族と外出したいと希望があった時には家族と話し合い十分な感染対策をし、多少の制限を設けた上で外出された	外出支援ではドライブの実施、庭先での散歩などで対応している。今後の対応は国の方針にもとづき全体会議で積極的な対応を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で使用されることは無かったが、お金を所持することで落ち着かれる人には少額ではあるが持って頂いた。自分でお金を持っている人はごく少数となっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1名、携帯電話を所持している人も写真を撮るだけに留まっている。手紙がくるのも殆ど無いが、来た時には返事を書くよう勧めている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけ、入居者同士の関係性、動線等考慮しながら、必要時には模様替えなどを行っている。ほとんどの人が日中フロアで過ごされている。	居間、食堂、台所は一体的で大きな窓から陽が入り、明るく、温、湿度が調整されている。不安から落ち着きがなく暴言を口にする利用者には行政や医療関係者からのアドバイスのもと薬の調整で回復するなど居心地良い共用空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2人掛けの椅子を2脚置き、食席の配置を変えたりしながらフロアの実環境整備をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談時や入居時には使い慣れたものをを用意して頂くよう説明はしているが、新しく用意するものが多く、中には壊してしまったりする人もいるので安全面から撤去せざるを得ない人もいる	居室にこもりがちな利用者には適宜声掛けなどをし、体調変化や気分転換、孤独感を感じない様職員全員で気を配り、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札を付け、トイレやふろ場には、それと分かるように大きく表示、トイレ内にはお願いごとでも大きく表示している		